

School of Education, Kyushu University

九州大学教育学部案内 2014



2014年度

九州大学 教育学部案内

SCHOOL OF EDUCATION, KYUSHU UNIVERSITY

CONTENTS

学部長挨拶	1
教育学部カリキュラム	2
アドミッションポリシー	4
講義紹介	6
教員紹介	12
国際交流	16
教職課程	18
資格・就職・進学	19
卒業生からの言葉	20
Q&A・アクセスマップ	21



学部長挨拶

九州大学 教育学部長

吉本 YOSHIMOTO 圭一 Keiich

東日本大震災を経験し、あらためて絆の大切さが痛感されます。日本を再興していこうとする多くの人々の熱い思いや活動にふれる時、人とコミュニティをつくり、個と類のいのちを繋いでいく営みとしての、教育の重要性を確認することができます。私たちはこれからどのような教育と教育学をつくっていくのか、学生、教職員、これから教育学部の仲間となる皆さん、また応援団となっていていただく卒業生の皆さんとともに、この「絆」を探求したいと思っています。

九州大学の教育学部は、1949年に新生日本の教育を担う人材養成の場としてスタートし、現在、教育学系、教育心理学系30名の教員を有し、アジア・太平洋地域における教育・心理学の教育研究拠点のひとつとなっています。数多くの研究者、指導者、またさまざまな教育の現場の実践家を世に送り出してきました。

いま教育学部で重視していることを3つお話します。1つめは総合学としての教育をめぐる幅ひろい学びです。人間の発達と、その環境である学校や家庭・地域における教育・社会・文化という共通のフィールドに対して、教育学、心理学を核として、人文、法、経済にまたがる人文・社会科学の多彩な学問的なアプローチを総合的に適用していきます。

こうした幅広い専門分野を担いながら、教育学部は、一学年の定員50名で、学生たちのまとまり、仲の良さナンバーワンの学部です。授業では、多様な専門的関心を持つ学生と一緒に学ぶ演習・実習が多く、少人数での、双方向的な交流の密度の濃い学習が進められています。ここで生まれる学生と教員、職員の絆の強さが、教育学部の大切にしている特長の2つめです。

3つめに、大学をとびだし、教育の現場や地域と深く関わる、経験的な学習の機会の豊富さです。主体的な学修者を育てるために、インターシップや臨床演習など教育現場に直接関わる授業科目を多く用意しています。そこでは、現場の教育課題の傾聴を通して現場に即した答えを模索し、課題探究・解決のための力と新たな絆が生み出されていきます。本学部では、地域密着で学習支援等を行うサークル活動が、学生たちの手で多く組織され、代々引継がれています。こうした環境も、若者のキャリア形成に向けての、本学部のガイダンスの機能を充実・向上させています。

教育学部では、これからもより多くの方々に本学部に関わりを持っていただき、オープンな交流を通して教育研究を推進して参ります。どうぞ皆さんよろしくお願ひ申し上げます。

あふりつ



教育学部カリキュラム

九州大学教育学部は1949(昭和24)年5月に文学部教育学講座を母胎に設置された学部です。当初は敗戦後の新しい民主主義に基づく社会を構築するために教育界の指導者を養成することを目的としていました。その後の教育界の変化に伴い常に教育社会の中心で活躍できる人材を養成してきました。

1. 教育理念

● 教育理念・目標、育成する人材像

九州大学教育学部は、人間に対する深い洞察と共感的態度を基盤に持ちながら、人間と人間のふれあう社会のさまざまな領域において創造的に問題解決できる人材を養成することを目的としています。

教育学部における教育は、人間の発達と形成を軸とする幅広い総合人間科学としての教育学・心理学に関する理論的並びに実践的な基礎教育と専門教育を通じて、具体的には以下の5つのタイプの人材像の育成を想定しています。

- 1 学部・大学院(本学部・本学大学院人間環境学府等)の一貫教育を経て、国内外の高等教育機関・研究機関等で教育・研究にたずさわる専門研究者。
- 2 学部さらには大学院での教育を経て、各種の教育・福祉機関等において教育・福祉の実践的活動にたずさわる専門職や指導者。
- 3 官公庁及び民間企業等で実践的な人材開発や能力開発、また教育分野や心理分野での実践活動にたずさわる専門研究者。
- 4 地域社会、さらには国際社会において、ボランティア活動としての教育的活動や福祉的活動にたずさわる専門家や指導者。
- 5 心理カウンセラーとして心理相談や心理ケア等の専門的活動にたずさわる専門家や指導者ならびにボランティア活動家。



2. 教育プログラム

教育学部は人間の発達と成長を軸とした総合的な人間科学を目指し、その基本を作っているのは教育学と教育心理学です。この二つの領域を総合的に学びつつ学年進行にともない、その専門性を深めていく方法をとっています。大きく教育学系と教育心理学系にわかれ、さらに教育学系には国際教育文化コースと教育社会計画コース、教育心理学系には人間行動コースと心理臨床コースの4つのコースを置いています。

それぞれのコースの特徴は8ページから11ページをご覧ください。

教育指導体制

授業には、講義、演習(ゼミナール)、実験、調査などいろいろな形態があります。また、演習でも、日本の文献だけでなく外国の文献を講読するようなものもありますし、1つの研究テーマを決めて、そのテーマを演習の参加者全員で追究していくようなものもあります。第3学年の前期終了までに指導教員を選択して、その教員の研究室に入ることになります。そして指導教員の指導のもとでその専門分野の基礎的な学習をしつつ、自分の研究テーマを見つけます。そして卒業論文のための調査や実験を重ねて、卒業論文を書くことになります。

● カリキュラムポリシー

本学部の教育課程は、基幹教育から専攻教育へと幅広い知識・学問から教育学や教育心理学の特定領域へと焦点化させていくとともに、初年度の段階から教育学、教育心理学の基礎を学び、学年進行と共にその専門性を深めていくことを目指しています。専攻教育に進学後は、本学部の長所である少人数教育の利点を生かしながら、人間の発達と成長を軸とした総合的な人間科学を目指し、専門領域の学問の習得と共に、教育学と教育心理学の二つの領域を総合的に学びつつ、それらの融合を図っています。専攻科目はそれぞれの系やコースに沿って構成し、シラバス等において内容、評価基準等を明示しています。また、専攻教育段階では理論的な学習のみならず、調査研究の方法やスキルを演習、フィールドワーク、実験・実習などで、社会との連携を保ちつつ、学生が主体的かつ実践的に学べるよう配慮しています。

● ディプロマポリシー

教育学部は、教育と心理双方にわたる幅広い視野と基礎知識を備え、さらに理論的、実践的な専門知識を習得し、①教育学および心理学の各専門領域における実践家や専門家としての知識やスキル、すなわち現場の諸問題を分析・探究・解決するための能力を備えた人材、②教育学および心理学の各専門領域における研究者への道をめざすための基礎的な知識やスキル、すなわちディスカッション、プレゼンテーション、外国語論文の読解、学術論文の作成等に係る調査・研究を行うための基礎的な能力を備えた人材を養成しています。

	国際教育文化コース	教育社会計画コース	人間行動コース	心理臨床コース	
4年後期	4年間の教育学部での勉学の集大成、指導教員から日常的な指導・助言を受けながら、論文を作成				高年次基幹教育科目
4年前期	教育哲学	教育実践学(4年後期)	学習心理学	グループ・アプローチ論	
3年後期	比較教育	教育学インターンシップ	行動発達学	家族コミュニケーション論	
3年前期	教育方法学	教育学ボランティア演習	人間関係論	臨床アクション・メソッド論	
2年後期	異文化間教育等	教育学フィールドワーク	コミュニケーション論等	障害児臨床学等	
2年前期	(6月)系及び指導教員の決定				
1年後期	教育学系		教育心理学系		
1年前期	教育学文献購読		心理学実験Ⅰ(2年後期)		
	専門を学ぶための方法論を身につけよう		心理統計		
	幅広い教養教育—専門に偏らず柔軟に視野を広げよう—				
	基幹教育				

卒業
(進学、就職)

貝塚地区キャンパス

伊都キャンパス

入学

アドミッションポリシー

求める学生像 (求める能力、適性等)

教育学部は人間の発達と成長を軸とした総合的な人間科学を学ぶところです。

人間に高い関心を持っていることが大切な要件です。

入学後にも、人間に関係する社会科学、人文科学、自然科学を学び続けます。そのために次のことを期待しています。

- 1 人間の教育や成長について学問的観点から科学的に考えることに興味と意欲があること。
- 2 いろいろな観点(ものの見方や考え方、価値観)や見地(異文化や国際的視点)に立って、多面的に議論し、考察ができること。
- 3 基礎的な学力を十分に持っていること。そして入学後も、専門的な知識や能力の習得に、着実に取り組めること。
- 4 知識を深め、視野を広げ、事実をもとに自分の着想と論点を構築し、まとめ、発表することを継続的にできること。

入学者選抜の基本方針 (入学要件、選抜方式、選抜基準等)

前記の求める要件が満たされていることを確認するための選抜を行ないます。

1 一般入試

一般入試においては、高校における主要科目全般の総合的な学力を重視します。入学者の選抜は、大学入試センター試験の成績とともに、前期日程における個別学力検査(国語、数学、外国語)、および調査書の内容により行ないます。教育学部では後期日程を実施しません。

教育学部の大学入試センター試験および個別学力検査等の配点は右の通りです。

	国語	地理歴史及び公民	数学	理科	外国語	面接	合計
センター試験	100	100	100	50	100	—	450
前期日程	200	—	200	—	200	—	600
計	300	100	300	50	200	—	1050

(出典:九州大学学務部発行「入学者選抜概要」2013年度版より)

2 AO入試

AO入試においては、大学入試センター試験を免除し、第一次選抜及び第二次選抜を行ないます。第一次選抜では、①小論文試験②提出された調査書又は調査書に代わる書類③個人評価書④自己推薦書の総合評価により選抜を行ないます。第二次選抜では、第一次選抜の合格者に対し、指定課題についてのプレゼンテーションを課し、それに基づく面接試験を行ないます。なお、指定課題は試験当日に提示します。

試験では、優れた基礎学力を持つとともに、主体的に課題を設定し社会における様々な事象に関心を持ち、それらについて明かな議論を構成し他者と能動的にコミュニケーションできる能力を重視します。

出願期間は9月下旬の一週間程度で、選抜は第一次選抜が10月、第二次が12月に行なわれます。

3 その他(帰国子女入試、私費外国人留学生入試)

学力とともに、異文化を理解し国際的な見地から考えることに優れた学生も受け入れます。

帰国子女入試では、異文化及び異なる社会への視点と多面的な理解を見るために、大学入試センター試験を免除し、小論文、面接により選抜を行ないます。出願期間は11月中旬の一週間程度で、選抜は2月下旬に行なわれます。詳しい出願要件などは、九州大学学務部入試課の窓口までお問い合わせください。

私費外国人留学生入試への出願には、まずTOEFL、IELTS、またはケンブリッジ英検(FCE、CAE又はCPE)のいずれかの成績、及び独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験の教科・科目の成績が必要となります。そして、本学において日本社会や文化への関心、勉学意欲、および学習能力を見るための日本語試験(読解、記述、聴解)と面接を行ない選抜します。詳しい出願要件などは、九州大学学務部入試課の窓口までお問い合わせください。

入学試験に関する
お問い合わせ先

九州大学学務部入試課 電話 / 092-642-2265 (月曜日から金曜日 8:30-17:00 祝日は除く)

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

※電話によるお問い合わせは、原則として志願者本人が行なってください。

●AO入試の試験準備



教育学部 4年
木幡 理沙 KOHATA Risa

AO入試は、1次試験で小論文試験、2次試験でプレゼンテーション・面接試験が行われます。1次試験の対策としては、まず英語の論文を読める程度の語彙力をつけるため、ひたすら単語を覚えるよう努めていました。そして、決まった字数・時間

の中で小論文に書く内容を構成するスキルを身につけるため、とにかくいろいろな大学の過去問からテーマを拾い、何度も小論文を書い

て学校の先生に添削してもらいました。また、文章要約の練習も行いました。2次試験の対策としては、学校の先生とプレゼンテーション・面接のコツを話し合い、練習を繰り返しました。またどちらの試験においても、教育時事についてアンテナをはっておくことが大切です。私は毎日、新聞の教育に関する記事を切り抜きノートにはり、概要と意見をまとめ、先生にもコメントをもらうというスクラップブックを作成していました。その他には、自分がなぜこの九州大学教育学部に行きたいのか、何を学びたいのかなど、自分の中にある大学進学への思いを言葉にして伝えられるように整理しておくことが大切であると思います。

●なぜ教育学部を選んだのか(私費外国人留学生入試)



教育学部 4年
朱 政 ZHU Zheng

私は「私費外国人留学生入試」を受験し九州大学教育学部に入学しました。中国では専門学校卒業後、航空関係の仕事をしていましたが、働くうちに「もっと勉強がしたい」という気持ちを強く持つようになり日本への留学を決めました。

2008年来日してからは、日本語学校に通い大学進学を目指して2年間勉強をしました。日本の大学に入るにはまず、日本学生支援機構が実施する日本留学試験(EJU)を受ける必要があります。当時は主に日常会話を中心とした問題が設定されていましたが、その結果次第で受けられる大学のランクが決定します。そこで、私は日本の国立大学でも名門の九州大学を受験することに決めました。

九州大学の「私費留学生外国人留学生入試」は筆記と面接からなり、筆記では日本語能力が重視された問題が出題されていました。

文法や単語の基礎力を重点的に伸ばすための勉強をし、面接対策として日本語学校の先生に模擬面接を何度もしていただきました。

入学後、私の持っていた日本人学生のイメージは大きく変わりました。日本語学校では日本人の友人はあまりできなかったのですが、同年代の日本人のイメージはほとんどテレビを通じた印象でした。九州大学の学生はとても真面目で、勉強熱心です。教育学部には、人間の行動の背景にある心理を勉強したいと思って入ったのですが、実際に勉強を始めていくと心理学はとても科学的で、仮説検証のために徹底的にデータを取り分析するところは、私の心理学のイメージとは異なったものでした。

様々な専門的な知識に触れることが多かった伊都キャンパスでの2年半を経て、私は瀨本教授の文化人類学研究室で勉強する選択をしました。来日以来、自分は中国人だと意識する機会が多くなり、九州大学に入学してからは図書館で儒教や仏教、道教に関する本を読み直すようになりました。文化や考え方の違いについて興味を持ち、「自分自身について知りたい」という意欲が湧いてきたのがきっかけです。

●九州大学教育学部に入学して(一般入試)



教育学部 2年
大野 愛哉 OHNO Aikana

「心理学を学びたい！」高校1年生の時、九州大学教育学部に「恋」をして私の一途な想いは叶いました。念願のこの学部に入り、「恋」が「愛」に変わりつつある昨今、それを高めようとして、その幅広さ奥の深さに戸惑うことも多くあります。私

が九州大学教育学部に惹かれた理由は、主に二つあります。まず入学の段階で学科やコースを決める必要がないこと、そして少人数で家庭的な雰囲気のある学部であることです。教育学部では、1・2年段階では教育学・教育心理学どちらについても広く学び、その上で3年時に自分の専門分野を決めることができます。そのため、さまざまな分野の授業で自分の視野を広げ、自分の本当に関心のある分野を見つけていくことができます。また、教育学部は1学年50人前後と、学部単位ではかなり少人数で構成されています。そのため、どの学年も仲が良く、先

生や先輩・後輩とのつながりも強い、家族のような学部です。授業の履修や専門分野の選択で迷った時なども、先生や先輩方に気軽に相談できるという理想的な環境の学部だと思います。

高校時代、九大教育学部を目指す決意してから私が努力したことは、まず数学の対策です。教育学部心理学系では統計など数学に関連することが必要となるので、入試の段階で数学がかなり重視されます。もともと数学が苦手、応用問題になるとさっぱり解けなかった私は、とにかくたくさんの数学の問題にあたり、そのプロセスを暗記して応用できるようにしました。減茶苦茶な方法ですが、今思えば私にはこれが一番あっていただようと思います。

入学して2年が経ち、入学時には漠然としていた自分の関心が少しずつ形になっているを感じています。自分の世界が広がり、驚くほどに色々なことを考えるようになりました。素晴らしい先生方の指南はもちろん、先輩や同級生の仲間たちといった恵まれた環境のおかげだと私は常に思っています。皆さんも目的はそれぞれ違うと思いますが、九大教育学部の「家族」の一員となって一緒に自分の可能性を広げてみませんか。

教育学部 1年生

1年生は主に、人文科学、社会科学、自然科学、語学、体育などの教養的な科目を学んで、幅広い知識と教養を身につけます。しかし同時に教育学や教育心理学の専門科目も履修できるようにカリキュラムを構成しています。平成26年度より、基幹教育が始まりますので、科目名や内容が変更されます。

基幹教育ってなに？

Q. 基幹教育はどのような理念に基づいているのですか？

高等学校までの教育は教師から生徒への一方的な〈知〉の伝達が中心でした。その結果、学びが受動的なものとならざるをえず、時には試験対策的な知識の詰め込みに傾斜することもあります。しかし、大学では何かを教わるのではなく、何かを見つけていくことが重要になってきます。ですから、大学での学びは学生一人一人が学びの主体として〈知〉を学び取るというふうに変わらなくてはなりません。基幹教育はそのような学びの主体者を育成するための、「学び方を学ぶ」「考え方を学ぶ」場なのです。

Q. 基幹教育は従来的一般教育（一般教養）とどのような違いがありますか？

専門の学問を学ぶ場として出発した帝国大学は、新制大学に移行した際に一般教育という考え方を取り入れ、広い教養をもった専門家を育成することを目標としてきました。しかし実際には、専門教育と切り離された一般教育において、専門性の薄い教養が教えられてきました。そこで私たちは、大学を専門の学問を学ぶ場として再び位置づけ、その〈幹〉となり〈基〉となる学問的教養、つまり学問の基礎となる教養的〈知〉を学ぶための過程として基幹教育を構想しました。そこには九州大学の全研究院から教員が参画し、学生は早い段階から幅広い知識や多様な経験やユニークな考えを持つ多くの教員に接し、学ぶことができます。

Q. 基幹教育の全体像や具体的な科目について教えてください。

基幹教育は1年次に伊都キャンパスで開講される〈モジュールI〉

新谷 恭明先生



及び2年次以降各キャンパスで開講される〈モジュールII〉からなります。〈モジュールI〉について、主体的な学習者の育成に大きく関係する科目として「基幹教育セミナー」が挙げられます。プレゼンが中心に置かれたこの科目では、大学で自分が学ぶ夢について具体化していく自分探しを目指しています。また、「課題協学科目」という個性的な科目も用意しています。ここでは、現代社会が抱える様々な課題や問題の中から設定された授業テーマに対し、教員が文系・理系にまたがる複数の学問的なアプローチを提示した後、設定された課題について学部の垣根を越えた少人数のチームで協同学習を行います。学問的教養の学びに重点を置いた科目には「文系ディシプリン」と「理系ディシプリン」があります。前者では、専門分野の基礎を学びつつ、文系の学問と文系的思考を知ること、後者では、自然科学を教養ないし専門基礎として学び、科学のリテラシーを身につけることが目標に置かれています。このような専門の学部の前段階として学びの足腰を鍛える〈モジュールI〉に対し、〈モジュールII〉は専門分野を補強して自分自身の学びのカタチを確かなものにしていく過程です。ここで重要な科目として位置づけられている「高年次基幹教育科目」は、学問の本質やその社会的な役割を問い直すため契機や、専門分野に関連する特定の知識・スキルを獲得するための契機を与えてくれるでしょう。

伊都キャンパスについて

Q1. 伊都キャンパスってどんなところ？

一番の自慢はキャンパスと自然の織りなす爽快な景色!といってもいいほどに、伊都キャンパスは景観が美しいキャンパスです。校舎はガラスを多く使ったスタイリッシュな建物ですが、淡いページュや茶色の大きな通路やベンチとともに暖かい印象を与えてくれます。授業が行われる講義室はもちろん、体育館、トイレも学食も、みんな使いやすくてきれいですよ!私が気に入っているのはセンターゾーンから図書館まで広がる景色です。広大な敷地を使っているキャンパスを、お天気の良い日にちょっと高台から見下ろすと、すごく爽快な気分になれます。桜の季節はさらに絶景ですね!

Q2. どうやって行けばいいの？

唯一の難点はちょっとアクセスしづらいことですが、ちゃんと分かれば困ることもないので、この機会に確認しておきましょう。具体例として博多から伊都キャンパスまでのルートを紹介します。まず博多駅から市営地下鉄に乗り込み、姪浜駅経由で九大学研都市駅まで行きます。九大学研都市駅はJR筑肥線ですので、姪浜駅で乗り換えるか、唐津行、または筑前原行の電車に乗りましょう。次に駅前のバス停から昭和バスに乗り込めば、九大伊都キャンパスに到着です。博多から直接キャンパスまで行けるエコルライナーというバスも運行していますよ。

Q3. お昼ご飯事情は…

全学教育が行われるセンターゾーン、理系学部のウエストゾーンのそれぞれに食堂があります。センターゾーンにはその名の通りサンドイッチのような形の大きい食堂「ピッククさんど」、また憩いの場という意味の込められた「Qasis」があります。学生にはちょっと高級なレストラン「Big Orange」もありますよ。ウエストゾーンには食堂や書店、またATMなどが入った「ビッグどら」があります。図書館にもちょっとしたカフェテリア「Libca」があって、勉強の息抜きに最適です。

Q4. 1年生の間は伊都キャンパスでの授業が多いけど2年生以降は箱崎キャンパスでの授業が多くなるって聞いたんだけど、先輩たちはどんなところに住んでるの？

1年生の間は伊都に住んで、箱崎での授業が本格化してくる2年生以降に箱崎周辺に引っ越すという人が結構多いです。他にも伊都と箱崎の中間地点に住んで4年間そこから通い続ける人や、1年生の頃から箱崎の近くに住んでいる人もいます。どこに住むのが正解と言うものではなく、自分が重視するものに合わせて住む場所を決めている人が多いですね。



基幹教育が行なわれる伊都キャンパスのセンター1号館と2号館(奥)

講義紹介

教育学部 2年生

2年生から、いよいよ専門科目を学ぶようになります。教育学部には教育学系17専攻科目、教育心理学系15専攻科目の専門科目がありますので、こうした科目を自分で選択して学びます。

Interview

教育学文献講読

岡 幸江先生 野々村 淑子先生



岡 幸江先生



野々村 淑子先生

Q. まず「教育学文献講読」とはどのような科目なのですか。

一言で表現すると、各担当教員がテーマを基に取り上げた英語・日本語文献をじっくりと読んでいくことを基本スタイルとしています。文献を「読む」とは、高校の国語のように単に内容を理解するだけでなく、文献が持つ背景・趣旨は何か、妥当性を精査する作業です。また、文脈の意味を知識、時に想像力を用いて検証していく事でもあります。例えば、文献に「解放」という言葉があれば、その意味は文献がアメリカの人の為のものか、もしくは日本人・発展途上国の人のものなのかによって、全く異なる意味・解釈がある事を知る、ということです。

Q. なぜ「教育学文献講読」を学ぶ必要があるのでしょうか？

教育学部では、卒業するために卒業論文を執筆する事が求められています。しかし、まずは文献をしっかりと読むことが出来なければ、書くことはできません。従って、教育学文献講読とは、教育学部で学ぶための「基礎中の基礎」の能力を体得するために必要なものだと思います。

Q. どのようなスタイルの授業になるのでしょうか？

教育学文献講読は「ゼミ」形式をとっており、大体担当教員一人につき10人以下の少人数で行われます。担当教員によりスタイルは様々ですが、例えば一つの論文を2~3人に担当してもらい、解釈や疑問点を書いてきてもらいます。それを基に、批判点を出し合い、議論。ぜひ議論を深め、論点を共有する楽しさや喜びをしてもらいたので、その時の学生の趣向や興味に応じて、担当教員と学生と一緒に授業を作っていく授業です。

Q. 高校生へのメッセージをお願いします。

教育学を学ぶことは、当たり前に見ている社会の事象を、教育学という学問のメガネを通じ、新しい視点から見えていくことで、社会を理解し、行動し、生きていく事であると信じています。共にそういう発見の喜びを味わえる仲間を歓迎します。

Interview

心理学実験Ⅰ

加藤 和生先生



Q. 心理学実験Ⅰとはどんな授業ですか

心理学の内容を理解したうえで、次はどうやって研究するのかを学ぶ授業です。心理学の学問領域には、知識や理論的側面と、方法論的側面があります。心理学実験Ⅰでは、この方法論的側面を扱い、実際にどうやってデータをとるのか、また今ある知識がどのような方法で作られてきたのかについて学びます。心理学実験の前の心理学統計で理論を、心理学実験Ⅰで方法を学び、続いて心理学実験Ⅱでは半年をかけて一つの方法論を用い、実際にデータをとり、分析し、発表します。段階を経て、最終的な卒業論文作成へ臨むのです。心理学を学習するにあたって、研究法は非常に大切な要素です。実験や研究をしっかりと行うことができるように、方法論を学習するこの授業は厳格に行っています。学生にはぜひ真剣に取り組んでもらいたいですね。

Q. 授業のスタイルはどういうものですか

水曜に2コマ分の時間を使って行います。1つの方法論を2回の授業で取り扱い、1回目では方法の説明などの講義形式、2回目は実際に学生間でデータを取り合ったりあるデータを基に分析したりなど実践的な授業を行います。その後、レポートを提出したのちに、次の研究法に入ります。それぞれの研究法を得意としている先

生方が、その2回の授業を担当するので、先生は研究法ごとに変わっていきます。

Q. 心理学実験Ⅰに向けて、取り組んでおくべきことはありますか

特にありませんが、その前にあった心理学統計をしっかりと学んでください。数字ばかりでなぜこのようなものをやらされているのだろうと思うかもしれませんが、その統計学は研究のベースになるものです。研究を行うときは、研究のデザインを考えます。統計学にはそのプロトタイプがあるので、統計学を臨機応変に使えるようになれば、適切なデザインがはっきり見えるようになるのです。

Q. 高校生へ何かメッセージをお願いします。

心理学に文学的、もしくはすると宗教的なイメージを抱いている人がいるかもしれませんが、しかし心理学は科学的です。仮説を立て、データをとり、その数値を基に客観的考察を行うのです。入学してから自分のイメージと違うと焦ってしまわないように、心理学がどういふものなのか、事前に調べたり勉強したりしてみてください。

教育学部 3・4年生

3年生になると、専門に勉強したい領域を決めることになります。何を専門に勉強するかは、原則として自分で自由に決めることができます。

系選択・ 専攻決定

教育学系では、教育の本質や目的、内容・方法や制度、また人間形成の過程や条件を学ぶのですが、教育学系は、さらに「国際教育文化コース」と「教育社会計画コース」という2つのコースに分かれています。

教育心理学系では、人間の行動や意識、知識や学習、人格や適応、発達障害や心身障害などについて学びますが、教育心理学系は、さらに「人間行動コース」と「心理臨床コース」の2つのコースに分かれています。

教育学系

国際教育文化コース

このコースは、国際化時代に対応してさまざまな分野で活躍できる幅広い知識と教養を持った人材の育成を目指しています。教育・研究の事項には欧米やアジア諸国の教育思想、教育制度、教育政策や教育改革、また各国の教育についての比較研究、国際理解、異文化理解、民族問題、さらに留学生、帰国子女、外国人子女の教育等があります。例えば日本の教育問題を相対化するために外国の教育や文化と比較したり、最近話題となっている外国人や帰国子女など異文化に染まった子どもたちと日本の子どもたちとの接触で生じる問題や、国際化という時代に対応する問題を解きほぐす道筋を模索できます。また、インターネットを駆使した教育方法の開発や教育とはいったい何であるかといった探求も欠かせない課題です。

Edward Vickers(比較・国際教育第一) | 藤田雄飛(教育哲学第二)

瀧本満(教育人類学) | 久米弘(教育情報システム)

坂元一光(教育人類学) | 竹熊尚夫(比較・国際教育第二)

田上哲(教育方法学) | 山田政寛(教育情報システム)

*詳細は「教育学部の教員紹介」へ

Interview

教育方法学

田上 哲先生



Q. 教育方法学とはどういった学問なのでしょう。

教育方法学は、学校現場の教育実践（授業をはじめ、ホームルーム活動、給食、掃除などあらゆること）をより良くしていくための学問です。ただ、教育哲学や教育史、教育社会学といった学問とは異なり、親学問もっていません。哲学や歴史や社会学といった様々な学問の視点から学び、それらを統合しつつ教育実践を考えていきます。

Q. どうして教育方法学が必要とされているのでしょうか。

教育学が対象とする教育は、例えば物理学や数学が対象とするものとは異なり、国や地域、歴史の中で、特定の価値を志向するところがあります。そこで教育方法学は、学問的な研究として現場で展開されている（きた）教育実践を省察的にとらえ直し、子どもたちのためによりよい教育実践を創造していくために必要とされています。

Q. 教育方法の興味深い点は何ですか。

教育方法学の主要な領域として授業研究があります。現在、日本の授業研究はlesson studyとして世界的に評価されています。これまで、日本の教育や教育学は欧米の影響を強く受けてきましたが、日本から発信したものが評価されるということはほとんどなく、Lesson studyの世界的普及は大変興味深いところです。ただ、lesson studyは一面的にとらえられているところもあるので、これか

らも日本の授業研究の多様性や本質を伝えていく必要があると思います。

Q. ゼミではどういった活動があるのでしょうか。

卒業論文や修士論文について、資料やレジュメを持ち込んでメンバーで検討することは当然ですが、授業研究や教職開発、学習指導等について、テーマを決め、皆で文献を持ち寄り検討することや共同研究としてまとめていくことを行っています。また、ゼミ合宿等では、実際に学校現場に行き、授業を参観し検討することを行っています。

Q. 高校生へのメッセージをお願いします。

社会的ニーズに無理に自分を合わせる必要はないと思います。高校生の今だからことできること、いろいろな人と出会い話を聞いてみることに、一歩前に踏み出して視野を広げる勇気を持ってください。そして、自分が本当に納得し、追求したいと思えることをみつけてほしいですね。

■ 教育社会計画コース

このコースは、教育と社会にかかわるさまざまな問題を社会科学的に探求したり、歴史的な観点から考察し、これからの教育計画や社会計画の立案・実施において指導的な役割を果たすことができる人材の養成を行っています。教育・研究の事項には日本や西洋の教育の歴史、教育行政のあり方、非行や社会の問題、現代的な学校改革や学校経営、生涯学習と大学＝地域連携があります。例えばいじめや不登校といった教育問題が生じたとき、その原因となる学校や家庭の教育が形成されてきた過程や現状を見直して課題を明らかにしたり、よりよい学校をつくるためのプランづくりや教育改革のための政策的な提言であるとか、より豊かな人生を生きるためのライフプランニングなどもこのコースでは考えることができます。



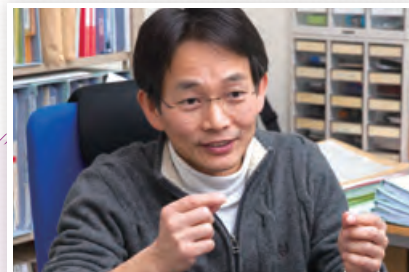
教育学部学生サロン

荒牧草平(地域教育社会学) | 元兼正浩(教育法制)
野々村淑子(教育社会史第二) | 岡幸江(社会教育計画論)
新谷恭明(教育社会史第一) | 田北雅裕(社会教育計画論)
八尾坂修(教育経営) | 吉本圭一(教育組織社会学)
*詳細は「教育学部の教員紹介」へ

Interview

教育社会学

荒牧 草平先生



Q. 教育社会学とはどのような学問ですか？

教育に関する事柄は、「～すべき」という言葉で論じられがちです。教育社会学はそうした価値判断を一旦脇に置いて、まず事実がどうなっているかを調べ、それがどうやって生じるかを、社会の仕組みや人々のやり取りに関連づけて理解しようとする学問です。原因を個人の性格や考え方に求めるのではなく、その個人が置かれている状況やその影響を重視するのが特徴と言えます。

Q. 先生の専門領域について教えてください。

実証的社会学、とりわけ質問紙を用いた調査研究を中心としています。具体的には、家庭の経済・社会・文化的条件、学校教育、社会制度、時代背景等が、高校生の進路選択や職業希望、教育達成、親の教育態度等に与える影響について調べています。なかでも教育達成の階層差は私の主要な関心の一つですね。

Q. 教育社会学の面白さはどのようなところにありますか？

社会学のアイデンティティのひとつとして「脱常識」が挙げられます。例えば「学力低下」を一つとっても、調査や分析のアプローチの仕方によって多様な見方ができます。日常生活の中で「あたりまえ」だとか「議論の余地のない事実」だとみなされていることを、多角的な視点から実証的に分析することによって解明すること、そうした「脱常識」に社会学の面白さがあると思います。

Q. 過去の研究室に所属した学生の研究テーマについて教えてください。

狭義の教育に限定されることなく、若者の結婚観、部活動におけるジェンダー規範の形成など様々なテーマに取り組んでくれたと思います。ある地元愛の強い学生は、高校生を対象に地元志向がどのように形成されるかを調査していましたね。学生自身が興味を持ったテーマに取り組むことが重要だと考えています。

Q. 高校生に一言メッセージをよろしくをお願いします。

読書や音楽、スポーツなど何か打ち込めるものが見つかるとういですが、しかし、それが見つからないと悩みぬくのも悪くありません。実は、私は、何をやるかは大きな問題ではないし、特別な存在になる必要もないと思っています。それぞれのやり方で生きてきたあなたひとりひとりが一体どんなことを考えているのかに私は関心があります。一緒にお話できる日を楽しみにお待ちしております。

❖ 人間行動コース

このコースでは、幅広い心理学の視点と知識に基づき、今日の社会変動で生じるさまざまな問題に対処していけるような専門家の育成をめざしています。教育・研究の事項には、子どもの知識・規範の習得過程、生涯にわたる心身の構造の変化の過程、集団の中での意識や行動のしかた、環境による認識や行動のちがいなどがあります。例えば、学級の中でのより効果的な学習方法を模索したり、人生のそれぞれのステージでの心と体の関係を解きほぐしてみたりすることもできます。また、学級、学校、会社などの組織の中での人間関係の問題がどういふふうになっているかなども興味深い課題です。

橋彌和秀(発達心理学第一) | 實藤和佳子(発達心理学第二)
 加藤和生(教育心理学第一) | 南博文(人間環境心理学)
 山口裕幸(社会心理学第二)
 *詳細は「教育学部の教員紹介」へ

Interview

発達心理学

橋彌 和秀先生



Q.「発達心理学」とはどのような学問ですか？

なぜ「発達心理学」を学ぶのですか？

率直なことを言うと“発達心理学”という学問はありません。というのも、知覚や言語、コミュニケーションといった各分野の専門家が明らかにしたいことを、赤ちゃんや子どもを対象とした場合にどう研究を進めればいいのか、という方法や技術を生み出すのが「発達心理学」なのです。そういう意味では、発達心理学を学ぼうと思えば本を読めばいいのです。ではなぜ赤ちゃんを対象に研究するのでしょうか。それは人の発達や生き物としての成り立ちを知る上で、大人だけ見ていたのではわからないことがあるからです。また、赤ちゃんや子どもについて、「なんか面白そうなんだけどなんなんだろう？」ということを新しい視点で見直すのが発達心理学とも言えます。

Q. 橋彌研究室とは、どのようなところですか？

具体的な日々の活動内容を合わせて教えてください。

一人一人が研究のテーマを持っていて、それぞれの研究の進捗状況や関連論文を持ち寄って議論する研究会というものを週に1度行います。なるべく時間に制限をもたないようにして納得のいくまで議論をすることを大切にしています。研究対象は主に登録していただいている約900人の赤ちゃんです。もちろんヒト以外の霊長類を対象とした研究を行うこともあります。

Q. いつ頃から、所属できるのですか？

また、何名くらい所属しているのですか？

3年の後期から所属することとなります。現在、学部生から院生まで合わせて13名が所属しています。

Q. どのような学生に来てほしいと思いますか？

破天荒な人に来てほしいですね。既存の枠組みにとらわれず、自分で問題を見つけ解決していけるような人に来てほしいです。大学は知識を消費する場ではなく、教科書に載るような事実を自ら作り上げていく場です。つまり智(ソフィア)を作るところなのです。それを消費する場ではありません。つまり送り手の側に回るという自覚を持つことが大切なのです。

私は学生であっても共に研究する仲間だと思っています。自分が新しい理論を作るのだという気概を持っている人と一緒に学んでいきたいと思っています。



心理臨床コース

このコースでは、心に悩みをもつ人々や、身体に障害のある人々を理解し、問題解決に導くことのできる、心の専門家の育成をめざしています。教育・研究の事項は、高度産業社会におけるストレス、心理的葛藤、また家庭内暴力、不登校、非行、犯罪などの問題行動や発達障害を持つ人々への援助や対処の技法の理論的・実践的な開発です。例えば、職場や家庭などでのいろいろな悩みを抱えて困っている人の相談に乗るカウンセリングの技法を開発したり、不登校のように学校で疎外された子どもたちの心のケアをする技術を学ぶことができます。また、障害を持った人たちが少しでも社会的な活動に参加できるような支援の技法の習得もできます。



心理系実験室

田嶋誠一(発達臨床学第一) | 遠矢浩一(発達相談学第二)
黒木俊秀(カウンセリング第二) | 古賀聡(生涯発達学)
佐々木玲仁(カウンセリング第三)
*詳細は「教育学部の教員紹介」へ

Interview

生涯発達学

古賀 聡先生



Q.「生涯発達学」とはどのような学問ですか？

また先生はどのようなことを研究されていますか？

生涯発達学では、一生涯に渡って生じる発達について考えていきます。生まれてから年齢を重ねていくうちに、成長し変化していくものは、身体的能力とか言葉に関する能力だけではありません。私という存在への理解や自己と他者、あるいは社会との関係性についての理解も変化していきます。そのような心の諸領域の変化を発達ととらえ、各時期における心のあり方や生じる危機や問題について学びます。

また、私の研究の特徴は、臨床実践に重きを置くという点です。私は九州大学に就職する前は、精神科病院で臨床心理士として働いていました。アルコール依存症やうつ病の患者さんのカウンセリングを行っていました。生涯発達視点の観点から、中年期の危機として、これらの心の病に対する理解や支援の方法について考えていきたいと思っています。また、認知症の高齢者に対する心理療法についても臨床研究を行っています。そして、私の臨床実践の特徴としては、カウンセリングに加えて、催眠療法や動作療法、プレイセラピー、即興劇を用いる集団心理療法の心理劇など種々の技法を用いる点です。

Q. 古賀研究室とはどのような所ですか？どのような活動が行われていますか？

現在は大学院生8名、学部生7名が所属しており、それぞれがテーマを持って研究に取り組んでいます。例えば、スポーツ選手が抱える心理的問題についての研究、心理劇を用いた家族の理解を促す研究、サンタクロースなどクリスマスの思い出を題材にしたファンタジーについての研究、高校生の母子関係についての調査研究などがあります。他にも肢体不自由者の心理的自立についての研究、発達障がい児の物事捉え方の特徴に関する研究、ロールプレイを用いた発達障がい児への援助に関する研究、身体感覚と回想体験の関連、認知症高齢者を対象とした回想法など幅広いテーマについて研究を行っています。週に1回それぞれの研究の進行状況を報告し、よりよい研究にしていくために検討しあう2時間程度の研究会を行っています。お菓子を食べながら侃々諤々の議論を行います。

また研究室の学生は動作法と呼ばれる心理療法を学んでいます。動作法は九州大学で開発された心理療法の1つで、身体動作を通じて心に働きかけるユニークな心理療法です。もともとは脳性マヒ者を対象にしていたのですが、現在では、不登校やうつ病など心理的問題を抱える人にも用いられています。月に1回行っている脳性マヒ児者を対象とした動作法の会では研究室に所属する学生がトレーナーとして参加しており、この訓練会は学部生の間に臨床経験を積むことができる貴重な機会となっています。(写真は動作法の会の後に学生と一緒に撮りました)

Q. 高校生の方へのメッセージをお願いします。

臨床心理士やカウンセラーに関心のある方はたくさんいらっしゃると思います。ただし、私たちが支援する人間の心は社会や生活の様々な領域に関わっています。専門教育も大切ですが、たくさん遊び、本を読み(漫画でもよいです)、様々な芸術や文化に触れてください。誠実さと情熱と遊び心をもった方を待っています。



PROFESSOR INTRODUCTION

共に学び、知を高めあう 教育学部の 教員紹介

教育学系

国際教育文化コース / 教育社会計画コース



教授

● 坂元 一光
SAKAMOTO
Ikko

教育人類学

国際教育文化コース

私の研究室では「人を生み育て文化をつなぐ」という人類社会の基本的営みについて比較文化の視点から調査研究をおこないます。そこに民族(民俗)文化や生活文化の視点をはさみ込むことで、人と文化の再生産の多様な姿や仕組みが浮かび上がり、より広い視野から産育や教育、文化継承の問題を捉えられると考えています。



教授

● 濱本 満
HAMAMOTO
Mitsuru

教育人類学

国際教育文化コース

教育人類学とは、自分が生まれ育った社会とは異質な社会の中に飛び込み、それを直接観察(見聞)することを通じて人間についてのさまざまな問題について探求していく学問です。学生には、自明な秩序を疑問に思うこと、自分の常識を崩してみる勇氣、そして自分の関心を閉ざしてしまわないことを教えていきたいと考えています。



教授

● 田上 哲
TANOUE
Satoru

教育方法学

国際教育文化コース

教育方法学は教育現場におけるさまざまな課題にアプローチする学問です。例えば、教室で実際に授業を参観・記録し、先生方と一緒に授業の在り方を見直していきます。この学問のおもしろさは、教師と子どもが相互に影響を与え合い共に成長を遂げている教育現場から、教育のあり方を考え、改めて教育の理論や本質をとらえ直していくところです。



教授

● 竹熊 尚夫
TAKEKUMA
Hisao

比較・国際教育第二

国際教育文化コース

比較・国際教育第二では、今日の国際化時代の比較教育学における新しい展開として、多民族社会の民族教育に焦点をあてて研究しています。この他に、国際教育(英語教育、国際理解等)、教育の国際交流(留学等)、環境教育などにも注目しています。日本の研究もありますが、多くは海外の地域研究を初めとした教育制度、政策、学校の研究を行っています。マレーシア半島部が中心ですが、近年は、マレーシアのサバ、サラワク州の他、フィリピン、フィジー、シンガポール、オーストラリアなどにも研究を広げています。



准教授

● 久米 弘
KUME
Hiroshi

准教授

● 久米 弘
KUME
Hiroshi

教育情報システム

国際教育文化コース

教室における教授活動をより効率的に、そして、授業内容を一人一人の学習者がより高いレベルの法則として理解できるよう、実際に授業を創造し、検証して行く事を目的としています。教える・教えられる関係、情報を伝達する状況、は、教室に限らず、あらゆるところに存在しています。このように抽象化する事で、教室の中で起きている情報伝達の仕組みを解明して行く事は、あらゆる学問の基礎にもなるはずで



准教授

● Edward
Vickers

比較・国際教育第一

国際教育文化コース

政治的社会化及び近代国家形成における教育の役割は比較教育の分野に携わる者にとって重要な関心領域です。これが私の主な研究であり、特に東アジアを対象としています。1992年から2003年まで中国(香港と北京)で高校の教師や教科書執筆の経験がきっかけとなっています。中国が国内及び東アジア諸国との安定を図るためにナショナリズムを用いるという危険性があることから、中国、台湾、香港や近隣諸国における国家のidentityに関する公式見解がどのように学校教育やその他の機関(博物館等)に反映されているかも探求したいと考えています。授業では、東アジア及び国際的な視点から、教育、identity形成そしてナショナリズムの関係の認識と理解を深める事を目的とします。



准教授

● 藤田 雄飛
FUJITA
Yuhi

教育哲学第二

国際教育文化コース

教育哲学は、教育に関わる日常的な実践から思想史的な概念までの多岐にわたる対象を哲学的に探求し、教育そのものを支える諸構造を明らかにすることを目指しています。こうした作業は日頃「当たり前」としてきたもの前で立ち止まり、それらに問いを投げかけるところから始まるものです。このような「当たり前」の不思議さに気づけるようなしなやかな感性と何処へでも向かいうる好奇心、そしてほんのチョットの冷めたまなざしを持って「哲学する」という経験を皆さんにもしてもらえたらと思います。



准教授

● 山田 政寛
YAMADA
Masanori

教育情報システム

国際教育文化コース

近年、教育の現場、学習の場にはタブレットやソーシャルメディア等、様々な情報通信技術(ICT)が教育・学習ツールとして導入されるようになりましたが、効果的にICTを導入するためには教員や学習者の特性、状況(文脈)も考慮し、教育・学習環境のデザインをしなければなりません。教育学(学習環境デザイン)では効率的、且つ効果的な、ICTを使った教育や学習環境デザインのために必要な観点、理論、またそのデザインの効果検証法を学び、実践に活かすことを目的としています。



助教

● 田中友佳子
TANAKA
Yukako

教育社会学

国際教育文化コース

韓国の児童保護の歴史について研究しています。とくに日本が植民地統治を行っていた時期に、「孤児」「不良児」「浮浪児」と呼ばれた子どもたちが孤児院や感化院へと送られた過程、養育や教育の目的と方法を明らかにすることが主な研究テーマです。史料を集め、読み解くという作業を通じて、子どもが社会や国家、あるいは家庭において保護され教育されるべき存在として認識されるようになったのは一体いつ頃なのか、それはなぜなのかといった謎に迫りたいと考えています。



教授

● 新谷 恭明
SHIN'YA
Yasuaki

教育社会学第一

教育社会計画コース

教育社会学第一では、日本の教育の歴史を研究しています。今常識だと考えていることが、実は常識でなかったかもしれません。その常識が歴史的に作られた原因を探ることに面白さがあります。また、実際に史料を探して、見つけたものから史実を発見するという快感もあります。



教授

● 八尾坂 修
YAOSAKA
Osamu

教育経営

教育社会計画コース

教育経営では、児童・生徒・学生にとってのよりよい教育活動のため、また広く学校(大学)改善のためにどう組織を活性化すべきか、どう人材を育成すべきかなどをテーマとして研究しています。

教育・研究領域として次の点を例示できます。(1)学校力を高めるための組織マネジメント、(2)学校改善と学校評価(自己・他者・第三者評価)、(3)教育課程(カリキュラム)をめぐる諸課題、(4)子どもの確かな学力向上方策、(5)教育委員会の教育施策と学校への反映・支援策、(6)学校と家庭・地域連携、(7)管理職、主幹教諭、指導教諭、栄養教諭の役割、(8)子どもの問題行動・安全・安心、保護者への危機管理、(9)教員の力量形成と研修、(10)教員養成・免許・採用制度改革(日本と諸外国)、(11)大学力の向上と大学評価、(12)学校行政・経営改革全般。



教授

● 吉本 圭一
YOSHIMOTO
Keichi

教育組織社会学

教育社会計画コース

教育組織社会学とは、教育のあるべき理想や理念を無前提に語るのではなく、教育が如何に社会的に規定されて成立しているのかという現実を把握し、そこから出発して要請されるべき課題や理念を吟味していく学問です。調査データを通して世の通説とはちがう自分の拘りがうまく説明できたとき、またしかしそれが同時に古今東西の理論や社会の知恵と確実に繋がっていることがわかったときなど、そしてそこから理論や理想を語る可能性を感じたときなど学問に関わっている楽しさを感じます。



教授

● 野々村 淑子
NONOMURA
Toshiko

教育社会学第二

教育社会計画コース

教育社会学第二では、主に欧米の家族や子ども、男女の生き方などの人間形成の歴史を研究しています。歴史の面白さは、真理とされがちなものを史料から解きほぐし、そこにある思い込みを崩していくところにあります。私は、テキストを理解するだけではなく、そこに書いてあることを批判し、挑んでいく姿勢と、そして矛盾しているように聞こえますが、自分の知っていることは僅かなのだという謙虚さをも伝えたいと思っています。



教授

● 元兼 正浩
MOTOKANE
Masahiro

教育法制

教育社会計画コース

教育法制研究室では、学校や教育行政の諸問題を「生きる力」「早寝早起き朝ごはん」といったスローガンによってではなく、法やシステムを改善することにより、よりよい教育のあり方を目指しています。たとえば、クラスの人数や教室環境、校務分掌を見直したり、教育予算の配当の仕方や教職員の定数を変えたりすることで、子どもたちの学習権を保障するとともに、教師が自律的にやりがいをもって教えられる環境づくりを模索して研究しています。



准教授

● 荒牧 草平
ARAMAKI
Sohei

地域教育社会学

教育社会計画コース

この研究室では、生活を取り巻く様々な社会的仕組みが、人々の生き方や物の考え方に与える影響について社会調査の結果に基づいて研究します。私は、家庭の経済・社会・文化的条件、学校教育、社会制度、時代背景等が、高校生の進路選択や職業希望、教育達成、親の教育態度等に与える影響について調べています。あなたは何を知りたいですか？



准教授

● 岡 幸江
OKA
Sachie

社会教育計画論

教育社会計画コース

社会教育学は、地域や学校外の視点から教育の原点をみつめ、そのトータルな組み換えを志向する学問です。学齢期・青年期の学校にとどまらない学びの場、また生涯にわたる学びとの出会い直しを支援する「もうひとつの教育」の世界について探求しています。とりわけ私の研究室では、フィールドに立ち生きた実践や暮らしの現場に寄り添いつつ、様々な角度から思考していくことを大事にしています。



講師

● 田北 雅裕
TAKITA
Masahiro

社会教育計画論

教育社会計画コース

まちづくりと情報デザインについて研究しています。まちづくりとは、まちの住民=当事者の立場になり、他者と協働しながら地域社会の問題を解決していく営みです。多様な価値観と公益性を前提としたまちづくりには、自らの専門性や既存の制度にとられない広範な知識と柔軟な感性が要求されます。しかし、だからこそやりがいがあるとも言えます。教育や子ども、そして学校との関わりから、その可能性を見出していきたいでしょう。



助教

● 針塚 瑞樹
HARIZUKA
Mizuki

教育人類学

教育社会計画コース

家族と離れて暮らしている、あるいは学校に通っていない子どもの教育を中心に、インド都市社会の子ども・若者を対象に研究しています。今日、多くの国々で共通の理念となっている「子どもの権利」という考え方が、インドの政策だけでなく、子どもの保護や教育の具体的な状況において、どのような意味を持っているのかを、現地調査に基づき分析しています。特に、子ども・若者の「自律」について、広く子どもと周囲の人々の関係性に焦点をあてて考えています。



共に学び、知を高めあう
教育学部の
教員紹介

教育心理学系

人間行動コース／心理臨床コース



教授

● 加藤 和生
KATO
Kazuo

教育心理学第一

人間行動コース

私の研究室では、自分(自己)とは何か、対人関係(人とのやり取りや関わりのあり方)について研究しています。特に、自己は何からなり、どのような働きをしているのか。対人関係が自己の形成や人格にどのような影響を与えるのか(特に、愛着・甘え関係、虐待)などを主に研究しています。こうしたテーマは、人間の根本的なあり方の問題であり、研究を通して自分自身のことを深く考えることが出来る点が魅力です。でも、自分自身に直面することが求められるので、心の準備のいる大変なテーマです。



教授

● 南 博文
MINAMI
Hirofumi

人間環境心理学

人間行動コース

私たちは様々な環境の中で生きています。生まれ育った国や町、学校や職場、また人間関係そのものも環境のひとつです。人間環境心理学とは、そのあらゆる環境と人の心理との関係について研究する領域です。教科書に載っている問題が全てではありません。教科書に載っていない、現実社会に通ずる問題を自ら見出し、その問題について考察していくという積極的な姿勢が必要です。



教授

● 山口 裕幸
YAMAGUCHI
Hiroyuki

社会心理学第二

人間行動コース

社会心理学研究室では、チームワークや集団力学の研究をしています。個人の心理だけでなく、皆で一緒に何かをやるとうときに、力を合わせ、支えあいながら、目標を達成するためにはどうしたらよいかを考える研究です。いきいきとした集団を作るために、どのようなリーダーシップが効果を発揮し、すぐれたチームワーク形成につながるのかを考え、集団を元気にする方法を探ります。

乳幼児のさまざまな行動の発達やその基盤について、観察や実験を通してあきらかにすることをめざしています。乳児は母親の顔をいつ頃どうやって認識するのか、母語をどのように獲得するのか、見聞きしている世界は大人とどのように違うのか、といった問題を通して、「ヒト」という生き物の成り立ちについて考えさせてくれる新しい事実を見つけていくことが研究の醍醐味です。我々自身の行動や生活の中に隠れているさまざまな謎を見つけ、探ることの面白さを共有したいと思っています。

准教授

● 橋彌 和秀
HASHIYA
Kazuhide

発達心理学第一

人間行動コース



准教授

● 實藤 和佳子
SANEFUJI
Wakako

発達心理学第二

人間行動コース

赤ちゃんは目に見えない他者の“こころ”をいつ頃からどのように理解していくのでしょうか。研究室では、乳幼児に直接会って、様々な課題や場面での反応や行動を観察することで研究をすすめています。さらに、発達に難しさを抱える子ども達を早い段階で見つけて支援するにはどうしたらいいのか、両親をはじめとする他者とのやり取りによってどのような側面の発達が促されるのか等、発達の個人差や発達支援も視野に入れた研究・実践活動をしています。

発達臨床第一では、イメージ療法といって心の深いところを探求する心理療法、ネットワークを活用した不登校児や児童養護施設の子どものための援助、スクールカウンセリングなどの実践と研究を行っています。



教授

● 田嶋 誠一
TAJIMA
Seiichi

発達臨床学第一

心理臨床コース



教授

● 黒木 俊秀
KUROKI
Toshihide

カウンセリング第二

心理臨床コース

私は、30年間余、精神科医療にたずさわって参りました。主な専門領域は、統合失調症、気分障害、発達障害などの治療学です。現代の医療システムにおいて、精神科臨床と同じく、心理臨床には、生物学的存在としてのヒトを対象とする科学的研究の方法論とともに、社会・文化的存在としての人を扱うという理念が求められます。崇高な理念のもとに、手堅い方法論によって、医療現場における心理臨床の新しい地平線を切り開きましょう。

カウンセリング第三では、主に描画法や箱庭療法といった心理療法で用いられる非言語的な方法を中心に研究を行なっています。また、それらを扱うための研究方法論そのものも研究の対象としています。



准教授

● 佐々木 玲仁
SASAKI
Reiji

カウンセリング第三

心理臨床コース



准教授

● 遠矢 浩一
TOYA
Koichi

発達相談学第二

心理臨床コース

発達相談学第二では、人とのコミュニケーション、友人関係、ことば、運動など様々な心身の発達に難しさを抱える子どもたち、そしてその家族の支援について臨床心理学的に研究しています。特に、こどもたちのためのグループセラピーや、障がいをもつ子どものきょうだい児、および、保護者のための支援活動を日々、実践しています。臨床動作法という私どもの研究室を中心に開発してきた技法による支援活動もまた一つの特徴です。学部生の段階から、大学院生と活動をともにしながら、体験的知識と技術を得られる場を提供しています。子どもたちの成長に携わることができるという点が魅力です。

一生涯に渡って生じる発達や心の問題について考えています。特にアルコール依存症や薬物依存症などアディクション(嗜癖)の問題を抱える人への心理援助、特に行為や動作を通した心への働きかけを行うアクション・メソッド(行為法)を研究してきました。即興劇を用いてその人の心の葛藤や苦しみを援助する心理劇、あるいは身体動作、身体感覚に注目してその人が自分の心に向かい合うことを援助する動作法が専門であり、学生の皆さんと一緒に研究や臨床実践を行っていききたいと思います。



准教授

● 古賀 聡
KOGA
Satoshi

生涯発達学

心理臨床コース



国際交流

九州大学教育学部は韓国の公州大学師範学部との連携協定を結び、様々な取り組みがなされています。公州大学は農山漁村センターと呼ばれる研究機関をもって、周辺地域と連携した研究が盛んに行われています。自然豊かな糸島地域への移転を見据える九州大学教育学部にとって、公州大学の取り組みは学ぶところが大きいです。その一環として、平成24年3月には「全学教育のフィールドワーク学習のカリキュラム開発に関する調査」として、本学の教員や大学院生が公州大学を訪問しました。

さらに、同年9月には、公州大学にて研究フォーラムが行われ、本学の教員や大学院生・学生も研究交流を行いました。また、フォーラム以外にも、中学校、農村の教育研究所、百済歴史文化館と遺跡などへの視察を行いました。平成25年4月には、九州大学において公州大学の教員や院生・学生を招いて国際フォーラムが開催されました。このように、九州大学教育学部は国際交流や現場体験の機会に恵まれています。興味のある方は、ぜひ積極的に参加してみてください。

❖ 韓国公州大学との連携

九州大学教育学部 4年
溝口 駿 MIZOKUCHI Shun



昨年の4月、ゼミ活動(社会教育学研究室)の一環として、韓国公州大学関係者の方々と九大との交流に参加しました。当日は、両校の人が同席するテーブルごとの交流が中心だったのですが、その際、手巻き寿司を囲っていたことが心に残りました。と言うのも、一緒にこれを作りながら、日本でのパーティー時の料理の話や、韓国では似た場面でどんな料理を食べるのか、など両国の話をするきっかけを作れたからです。そのおかげで、韓国の文化について知れただけでなく、公州大学の学生さんの好きなもの話などに派生して、他の話を充実させることができました。特に、言葉があまり通じない中だったので、共通の話題ができることで、話が上手く続かなかった状況を打開する手助けになったように思います。このように、手巻き寿司を囲むことで、お互いのことを知ったり知ってもらったりでき、楽しく充実した時間を過ごしました。

また、昨年の10-11月の数日間は、社会教育学研究室の合宿で、逆に公州大学を訪れました。その際、公州大学の方々には、大学周辺の教育施設に案内していただいたり、歓迎会を開いていただいたりなど、様々な面で手厚いおもてなしを受

け、とても嬉しく思いました。その中でも、特に心に残ったのは、教育施設を巡る際、公州大学の方々から車を出してくださったことです。その心遣いに感動した上、一緒に車で移動することで、深い話をできたことが楽しかったです。私の乗せていただいた車は、公州大学の学生さん3人と九大生2人で、車内ではお互いの学校のことなどの話をしたり、窓の外を見ながら公州周辺の名所や韓国ならではの風景について話を伺いました。この経験は、限られたメンバー間でありながら、のんびり話を聞いた時点で、ぜいたくな時間でした。



このように、公州大学との交流においては、福岡で公州大学の方々の歓迎会を開くのと、逆に公州に九大生として訪れるのと、両方を経験しました。いずれの場合においても、料理や車窓を通じての手探りのスタートではあったものの、お互いのことを知ったり知ってもらったりして、楽しく充実した交流でした。今後は、こうした経験が、料理や車窓と同様に新たな交流のきっかけとなり、このような活動が続いて欲しいと思いました。そうすることで、両校に今後入学してくる学生たちにも、こうした楽しく充実した時間を経験してもらえることを望んでいます。

EUIJ九州



EUIJ九州は、欧州連合(EU)の日本における学術拠点として、研究者・学生、企業、一般市民などを対象に、政治・経済、科学技術および文化面でのEU理解と知識を深めるための活動を行っています。EU本部の委託を受けて、九州大学、西南学院大学、福岡女子大学の3校によるコンソーシアム(共同組織)として、教育活動、研究、奨学金などの研究助成、アウトリーチ活動などを主に行っています。

教育活動の一環として昨年、第1回目のEU研修旅行を実施し、3校から15名の学生が参加しました。EUの機関を見学し、現地の大学生との交流を行うプログラムで大学の講義などで学んだEUの仕組みや人々の生活の一端を体験し、「ヨーロッパ統合」を具体的に知ることができるとも良い機会となっています。



❖ EU研修旅行に参加して

私は海外留学に関心があったので、g-portalの海外留学情報のメルマガ登録しており、このメルマガでEU研修旅行のことを知りました。毎日何となく過ごしていて刺激が欲しかったということ、この企画はEUIJのみなさんが考えて計画されているので、普通の観光ツアーとはひと味違う内容で、EUの機関で直接お話を聞いたり見学したりすることができ、またベルギーの大学生との交流など、ユニークな内容だったこと、旅行費の補助もあったことなどの理由で応募しました。

この研修旅行では欧州審議会や欧州裁判所、欧州議会など、様々なEUの機関を見学することが出来ました。専門的な知識もなくわからないこともたくさんありましたが、実際に見学して、お話をしてくれる現地の方や引率の先生に質問したり、メンバーで話し合ったりして理解を深めていったことはとても楽しかったです。

研修旅行に参加したメンバーはいくつかの大学の学生が集まっており、最初は知らない人ばかりでしたが、食事をしたり、一緒に計画をたてて観光したりするうちにメンバー内での交流も深まりました。ブリュージュやブリュッセルでの自由行動では先生やメンバーと一緒においしいワッフルやムール貝を食べたりしました。ベルギーはビールが有名で、本当にたくさんの種類のおいしいビールがありました。私は特にピーチビールが大好きになりました。

教育学部 3年 福田 紗耶香

また、ベルギーのゲント大学、ルーヴァン大学の学生にホームステイして、交流したことも思い出に残っています。交流した学生たちは日本語を勉強している人たちが、日本にとっても興味をもってくれていて改めて日本の良さを見直すきっかけになりました。ホームステイしたときはベルギーの学生たちがいつも遊んでいるところやお気に入りのカフェに連れて行ってもらったり、日本語の授業に参加させてもらったりしました。短い時間でしたが、その中でいろいろな話をして、仲良くなれたことはとても嬉しかったです。そのあと福岡に遊びにきてくれたりして、今でも交流が続いており、素敵な思い出でした。



ヨーロッパを実際に体験してみて、いい意味での違和感がたくさんありました。政治人も教育も食べ物も何もかもが刺激的で、面白かったです。今までは教育の面ばかりを見ていましたが、この研修旅行で学んだことをきっかけにヨーロッパの政治的な側面、歴史的な側面も学んで、アジアのあり方、平和についても考えていきたいです。

コラム

留学|体|験|記

❖ 九大から海外へ



教育学部 4年 高山 美咲

私は、2012年9月～2013年11月(短期の英語研修(2012年9月～2013年1月)の期間含む)まで、九州大学から交換留学生としてオーストラリア・シドニーのシドニー大学に留学しました。シドニー大学で勉強に打ち込んでいた期間も含め、オーストラリアで過ごした休日、私にとってかけがえのない日々でした。シドニー大学を留学先として選んだ理由は、過去にオーストラリアに何度か行ったことがあるから・家族や友人が住んでいたから・英語を含む外国語のコミュニケーションにもともと興味があったから・この留学が英語力の向上と将来のキャリア再考に役立つだろうと思ったから・英語圏の大学で心理学を学んでみたかったからと、どうしてもご縁を感じてしまったからです。

オーストラリアへの留学準備は、学生ビザの取得準備とお世話になるホストファミリーの選定と銀行口座開設などは渡航前に自力で比較的スムーズに進みましたが、TOEFL iBTやIELTSのスコアアップのために勉強し実際に現地で英語によるコミュニケーションを取るのが大変でした。いくら、英語能力テストの点数が良くても、初めのうちは慣れない長期滞りかつ内気な性格が災いして、赤面しながらぼそぼそ喋っていたほどでした。しかし、生活しているうちに耳と口が慣れてきて、日常会話での友人との会話だけでなく、授業中のプレゼンテーション・ディスカッションにも臆することなくすらすら話すことが出来るようになりました。

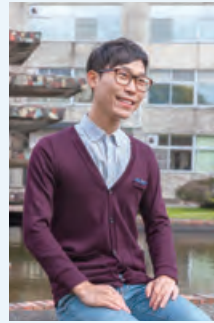
大学の授業では、前期と後期は、九大の専攻に合わせて心理学の授業をメインに受講しました。前期には、社会心理学と異常心理学とオーストラリアの政治学を、後期には発達心理学と応用心理学(組織心理学・司法心理学・健康心理学の総合科目)とライティングで、どちらも1つずつ心理学ではない科目も受講しました。勉強は、日本とオーストラリアではエッセイの書き方も課題の量も提出の仕方も何もかも異なり、1人きりではどうすればいいか戸惑いました。そういう時には、現地の学部生の友人やTA(各チュートリアルを担当の上級生)が、心理学レポートの書き方や分からないことを丁寧に教えてくれたので、大いに助かりました。四苦八苦の努力を経てなんとか科目全てをパスしましたが、特に日本の大学では学べない司法心理学を学んでいた時間は、大変興味深く私の進路決定を強くゆさぶるきっかけになりました。

在学中も休暇中も、ユニークなことはたくさんありました。キャンパスを歩いているとブルーマウンテンの山火事の影響で空が赤く灰が飛び散っていたり、ゲイとレスビアンのパレードや艦船博覧会を観に行ったり、オーストラリア中を巡ったりと面白いエピソードは語りつくせません。大きなイベントだけでなく、現地人と様々な国籍の人々との交流は、「私は今世界の縮図の只中にいるんだ。日本とはどんな国だろう。」という気持ちを強くさせました。

私にしか出来ない独自の留学によって、コミュニケーション能力への自信・日本の国際的立ち位置と人生観の再考・多文化の理解・精神的自立など数えきれない貴重な経験を得ることが出来ました。私はオーストラリアが大好きなので、いつか本格的に心理学を学びに再び渡豪出来たらいいと思っています。



❖ 海外から九大へ



慶尚大学 金 相秀

短いけど長かった一年間の交換留學生生活は、私にとってすごく良い経験になりました。幼い頃から日本に関心があった私に、日本留学の機会が与えられたのは夢のようでした。あまりにも望んだ事だったので、一年間の家族、友だちとの別れもそんなに寂しくなかったです。

最初の頃はいつもの生活とは違う毎日を送るため、目の前の全てが不思議で楽しかったです。日本で、日本人じゃない外国人との出会いとか、日本の普通の家庭の生活、気付かなかった所の韓国と日本の違う目など、毎日の全てのことが楽しみでした。九州大学での生活もすごく良い経験でした。まず、私は韓国の大学で教育を専攻しているので、九州大学でも教育学部に入りました。学部の授業と研究室の研究会などを通して、私にとっては韓国の教育だけではなく、日本の教育についても勉強することができたので、教育について自分の知見を広げることができました。また、九州の有名大学である九州大学で勉強することは、私にも良い刺激になりました。学部生だけではなく、私のような留學生の皆が自分の夢を持ち、その夢のため、頑張っているのを見て私も頑張ろうという気持ちになりました。それが原動力になって充実した留學生生活ができたと思います。

この一年間の留學生生活を振り返ると、もちろん後悔したことや悲しかった時もありましたが、それも含めて一つ一つの経験全てが大切な思い出ばかりです。人との出会いや韓国ではできない経験、家族の大切さなどすべてが私の大切な思い出としていつまでも残り続けると思います。



交換留学について

交換留学は、一年を越えない期間、九州大学の学生を交換留學生として外国の大学へ派遣するものです。最大の特色は、協定相手大学との授業料相互不徴収制度です。交換留學生は九州大学に所要の授業料を納める必要はありませんが、留学先の大学では免除となります。

留学先大学での在学期間は、九州大学の在学期間として取り扱われ、取得した単位は所属学部・学府が認めれば、九州大学での単位として扱うこともできます。交流協定大学のリストは海外留学ホームページ(<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/>)に掲載しています。

交換留學生の募集時期は、7月～9月下旬で9月中・下旬ごろに学内面接を行います。また、募集前の5月、7月には、留学について知りたい学生を対象に、留学説明会を開催します。その他、教員からの推薦による募集が12月と4月にあり、それぞれ学内面接をします。

教職課程

教育学部では教師になるための教員免許を取得できます。教員免許のための授業が用意されていますので、卒業要件の単位とは別に、その授業の単位を修得する必要があります。教育学部で取得できる免許は、中学校一種(社会)と高等学校一種(地理歴史及び公民)です。

1 免許状取得のために必要とされる単位

免許状を取得するためには「教職に関する科目」「教科に関する科目」「教科又は教職に関する科目」及び「免許法施行規則に定める科目」の必要単位を修得する必要があります。それぞれの単位は、原則として以下のように定められています。詳しくは、教育学部学生便覧を参照してください。

	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
教職に関する科目 (教職活動に必要な知識・技術・態度)	23単位 (九州大学の課程認定では24単位)	31単位 (九州大学の課程認定では32単位)
教科に関する科目	20単位 (学部・学科によって異なる場合がある)	20単位 (学部・学科によって異なる場合がある)
教科又は教職に関する科目	16単位	8単位
免許法施行規則に定める科目	「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」に相当する科目からそれぞれ2単位	

介護等の体験について

中学校の教員免許状を取得しようとする場合は、「介護等体験」を行なうことが義務づけられています。具体的には、特別支援学校や社会福祉施設等で、障がい者、高齢者の方々への介護・介助を行ったり交流したりする体験を7日間かけて行なうことになっています。介護等体験に関する説明会は、2年生の2月下旬、介護等体験事前指導を3年生の5月初旬に行なっています。

2 教育実習について

教職科目としての教育実習は、九州大学においては「教育実習研究」「実習校での実習」「教職実践演習」から構成されています。教員になるためのインターンシップともいえる実習は、九州大学では附属校が無いので、教職科目を履修する学生の母校などで行なわれます。実習は原則として4年生の6月から7月の2週間(中学校は3週間以上)にわたって行なわれますので、3年生の6月ごろから実習校を選び内諾を得る準備をする必要があります。

COLUMN

コラム

教員免許・教員採用試験について

九州大学教育学部は教員養成を目的とした学部ではないため、教員にはなれないというお話があるかもしれませんがそんなことはありません。卒業単位とは別に教員免許の為に用意された授業で単位をとれば教員免許を取得できます。

2年生のころから教員免許の取得に対応した講義が始まり、実習には4年生の6月～9月ごろに実習に行きます。また、教員採用試験が全国各地で8月ごろに、私立学校の採用試験なども4年生にあがるころから始まるので教員を目指す人は教育実習の準備と教員採用試験の勉強を並行して行っていかなければなりません。

教育実習では主に自分の卒業した母校に行くこととなりますが、卒業生としての立場ではなく実習生です。現役の高校生や中学生たちに勉強を教えたり、適切な指導を求められる場面もあったりと、楽しいことばかりが待っている実習ではありません。また、授業の準備や学校行事などでは実習生ではなく「一職員」としての動きが求められることもあり、生半可な気持ちでいくと痛い目を見ることもあるでしょう。しかし、生徒からは年が近く、先生方よりも気軽に話しやすい存在として受け入れられていくことで、教育実習における体験はとても充実したものとなります。

実際に教員になるためには、採用試験を突破しなければなりません。採用試験は大きく分けて2つ存在し、各都道府県が開く公立学校の教員採用試験と私学協会

教育学部 4年

伊地知 尚輝 IJICHI Naoki



が開く私学教員適性検査があります。前者の試験は、近年通りやすくなっているという話や教科によるばらつきもありますが未だに狭き門です。後者の試験は高校生が受けるセンター試験のようなシステムで、点数ごとに成績が与えられ、その試験を元に私立学校側からの連絡を待つという形になります。どちらの試験にも言えることはしっかりとした教科に対する知識と教育に対する深い理解が求められているということです。教育への理解は教育学部の授業で培うことができますが、教科に対する知識は自分でしっかりと勉強していかなければなりません。大学受験で求められていた以上のレベルの知識が求められているので、教員志望の人は早い段階からしっかりと準備をしておきましょう。

九州大学の教育学部で教員を目指す人はあまり多くはありません。しかし、この学部で得られる教育に対する様々な知識や見方は教員として求められる能力を身につける上で大きな影響を及ぼすものと言えるでしょう。私自身もこの教育学部で得た知識を活かし、今後、教員として立派に働いていきたいと思っています。

教員紹介



助教

● 清水 良彦
SHIMIZU
Yoshihiko
教育方法学

学習者である子どもが授業実践の検討・解釈を行う「子どもによる授業分析」の研究を行っています。「授業分析」は1950年代に日本で始まった授業研究方法で、客観的な授業記録(授業実践の事実)に基づいて授業を検討し、解釈するという特徴があります。授業の事実をより多面的に捉えるために、教師(授業者、現場教師)や大学研究者だけではなく、様々な参加主体(例えば、子どもや保護者)が授業実践を検討する新たな授業分析方法を開発しています。



助教

● 向井 隆久
MUKAI
Takahisa
教育心理学

人が物事を理解し、知識を獲得してゆく仕組みを、教育・発達心理学的観点から研究しています。子どもから大人まで、知識獲得の仕方はどのように変化(発達)するのか?またどんな仕組みで知識獲得は達成されていくのか?そうした問題に答える研究を通して、子どもや学生が何かを学ぶ際に、ただ受け身的に見聞したことを覚えるだけでなく、主体的に考え、理解を深めながら学ぶためには、どういった心理学的支援が有効かを考えています。

QUALIFICATION · EMPLOYMENT · GRADUATE SCHOOL

資格・就職・進学

免許・資格

教育学部で所定の単位を修得すれば、次のような免許・資格を得ることができます。

教員免許状

中学校の社会(1種免許状)、高等学校の地理歴史、公民(1種免許状)、別に他学部の単位を修得すれば中学校と高等学校の国語、外国語の教科の1種免許状が取得できます。

社会教育主事

教育委員会において社会教育を行う者に対して助言・援助する社会教育専門職員の資格です。ただし、資格を取得するには大学在学中に社会教育法第九条の四及び社会教育主事講習等規定第11条に示されている所定の単位を取得し、その後社会教育主事補もしくは社会教育法に定める同等以上の職に1年以上在職する必要があります。

臨床心理士

こころの問題への助言・相談・援助などを行う高度専門職の資格。学部卒業後指定大学院(本学の人間環境学府臨床心理学指導・研究コース等)の修士課程を修了、または、専門職大学院(本学の人間環境学府実践臨床心理学専攻等)の専門職学位課程を修了することにより、受験資格が得られます。

就職及び進路

教育学部の卒業生は、大学院へ進んで研究者の道を歩むもの、官公庁(地方公務員も含む)で行政に携わるもの、家庭裁判所調査官として専門的な実践携わるもの、また一般企業では金融・保険業やサービス業、マスコミや広告業、情報処理、製造業など、さまざまな分野に進んで活躍しています。

教育学部の進路先

進路	2009	2010	2011	2012
進学	22	27	9	18
就職	22	21	23	25
その他	9	6	9	11
計	53	54	41	54

主な就職先

企業: 福岡中央銀行、山田養蜂場、九州電力、ソフトバンクテレコム、キャンン、サントリーフーズ、ユニクロ、西沢本店、日揮

官公庁: 福岡県庁、熊本県庁、宮崎県庁、福岡市役所、北九州市役所、小郡市役所、九州経済産業局、篠栗町役場、九州大学

(参考:主な進学先)

九州大学大学院人間環境学府、九州大学大学院統合新領域学府、兵庫教育大学教職大学院

大学院

人間環境学府

<http://www.hues.kyushu-u.ac.jp/>

国際化や情報化の進展とともに、人間と環境をめぐる問題は大きな変化を示し、環境問題は地球規模でますます深刻化していく方向にあります。

いま私たち人間にとって大切なことは、人間と環境を従来のように分離して捉えるのではなく「人間環境」という形で一体的に捉え、環境とのよりよい共生の在り方を探ることです。

人間環境学府は、こうした社会背景や理念を踏まえて、人間にとって最適な環境のあり方とその創造の方向を探るために新しく生まれきた学際的な学問領域を、人間学的な視点、教育学的な視点、心理臨床学的な視点、社会文化的な視点、健康科学的な視点、工学的な視点から総合的に研究、教育するための大学院です。人間環境学府は次の専攻(コース)からなりたっています。

一学年の学生定員は、修士95名、博士40名及び専門職30名です。授業科目は、住環境に関するものから人間の内面世界に関わるものまで幅広い科目があり、学生諸君には、専門分野はもちろんのこと、工学的なテクノロジーから文系的なソフト・サイエンスに至る幅広い知見を学修することが期待されています。

A.都市共生デザイン専攻

- アーバンデザイン学コース(修士)
- 都市災害管理学コース(修士)
- 持続都市建築システム国際コース(修士・博士後期)
- 都市共生デザインコース(博士後期)

B.人間共生システム専攻

- 臨床心理学指導・研究コース(修士・博士後期)
- 共生社会学コース(修士・博士後期)

C.行動システム専攻

- 心理学コース(修士・博士後期)
- 健康・スポーツ科学(修士・博士後期)

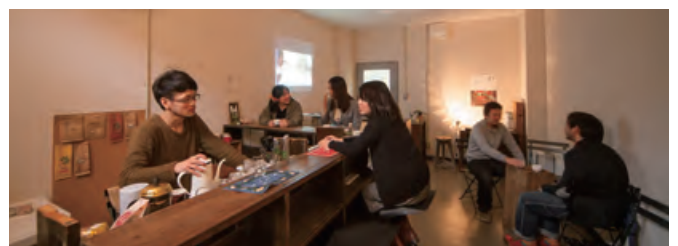
D.教育システム専攻

- 現代教育実践システムコース(修士)
- 総合人間形成システムコース(修士)
- 教育学コース(博士後期)

E.空間システム専攻

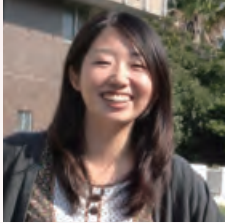
- 建築計画学コース(修士)
- 建築環境学コース(修士)
- 建築構造学コース(修士)
- 持続都市建築システム国際コース(修士・博士後期)
- 空間システムコース(博士後期)

F.実践臨床心理学専攻(専門職)



学生たちのサロン「ハコカフェ」

卒業生からの言葉



(株)ベネッセコーポレーション

栞原 靖子

KUWAHARA Yasuko

私が九州大学の教育学部へ進学したのは、教員養成だけに限らず広く教育について考える時間を求めていたからです。高校生の時の私は、教育への関心は高いものの、具体的な将来の夢を抱けておらず、大学で学びながら自分の社会への関わり方を考えたいと思っていました。そのような私にとっては、パンフレットに掲載されていた多様な授業名がどれも興味深く感じられ、卒業生の進路が教員・公務員・企業人と多様だったことが魅力的でした。

九州大学教育学部は1学年約50人と少人数ではありますが、志の高い学生が集まっており、教育に関心の高い仲間と議論することは大変刺激的でした。また授業では、講義形式だけでなく少人数で話し合うことが多いですし、ときには授業の一環として、近隣の小学校で授業のサポートをしたり、教育系NPOへインターンシップをしたりしました。それらは必修の単位ではありませんが、九州大学は、学生がそのような体験的学習をするためのサポートは手厚いと思います。授業外でも、友人とサークルを立ち上げて学校に出前授業に行ったり、他大学の教育への関心の高い学生と合宿をして語り合ったりすることもありました。

そのような学生生活を送る中で、私は学校種間の接続や、学校から社会への接続に関心を抱くようになりました。以前は教師になることを考えたこともありましたが、進路決定の際に重視したのは、教師ではない立場で学校の枠を超えて学校教育に関わることでした。現在私は高校生向け教材の編集を担当しています。高校生が卒業後の進路を考えるきっかけづくりと、実現したい進路に向かって立ち向かう力の育成という点で、まさに学校種間の接続や、学校から社会への接続に関わる仕事を担っているという使命感があります。

夢に向かって努力することは素晴らしいことだと思います。しかし明確な夢がなくとも、その時その時の自分の興味関心に素直に向き合い、目の前にあるチャンスを最大限に活用することでその先の未来へつなぐヒントを見つけることができると思います。高校生のみなさんは、これから無限に広がる可能性を存分に楽しんでください。



鹿児島大学大学院
臨床心理学研究科 講師

小澤 永治

OZAWA Eiji

高校の頃は理系を選択していて、なんとなく大学に関しては工学部や理学部に進学するのかなと思っていました。ふと見た本で「心理学」と言うものを知り、世の中では「カウンセリング」ブームというものが起こっていて、よくわからない人の「ころ」と言うものに興味を持ち、九州大学教育学部に進学することになりました。

教育学部に入学後は、さまざまな人との出会いがありました。先輩や友人に誘われるまま自閉症のお子さんたちと遊ぶ「土曜学級」という活動に参加したり、新たに始まった「教育学ボランティア演習」という授業で福岡市内の小学校に週に1度お手伝いに行ったりと、大学の外に出た活動が多かったように思います。あまりそれまで関心もなく、得意でもなかった「子ども」達との付き合いが始まったのは、教育学部生の時からでした。また、学部4年では、学部の「学生海外短期研修派遣」制度を使って、ベトナムに2週間ほど出かけました。フエとホーチミンという二つの町を訪れ、ストリートチルドレンの援助を行っているNPOの活動を見学させていただきました。その中で出会った、経済的な困難や家庭環境の複雑さを抱えた、しかし元気に生きている子どもたちとの関わりは、現在の研究や実践といった仕事のベースになったように思います。

そのまま九大の大学院に進学した後も、子どもたちと関わるグループ活動があり、関わり手である自分たちも心から遊びながら、しかし一方で何が援助になるのかを考えながら、専門教育を受けてきました。臨床心理士資格取得後は、児童養護施設、児童相談所などで非常勤職として働き、現場で活躍されている教育学部出身の先輩方に丁寧な指導を受けることができました。

今は、長年過ごした福岡を離れ、鹿児島島の地で臨床心理学に関する研究・教育を行う仕事についています。教育学部を介して出会い、たくさんのことを教えてもらった子ども達の役に立つことを目指して働いています。これから教育学部に入学し、学んでゆく皆さんにも、さまざまな出会いを大切にもらえればと思います。



北九州市役所
建設局用地課

秋月 健一郎

AKITSUKI Kenichiro

私は幼稚園年長から中学三年までの10年間、シンガポールという国に住んでいました。小学校と中学校は日本人学校に通い、「英会話」というカリキュラムと体育や美術などの授業をネイティブから英語で受けるという以外は日本の学校と全く同じ勉強をしていました。学校行事では海外というだけあり、現地校との学校交流やホームステイが毎年行われ、それを通じて「日本とシンガポールと、教育システムが違うんだ」と感じたことが九州大学の教育学部を選んだ原点だったと思います。

未だによく聞かれることが「教育学部だったら先生にならなかったの?」ということ。確かに、この学部でも一定の単位を取得すれば教員資格を得ることができますが、私はあくまで教育のシステムに興味を持っていたのであり、元々は保育士という夢もありましたが、教育の根本について「教育学」を深く学べる点でこの大学を選びました。

私は北九州の出身ですが、福岡まで通学するのが大変だと思い、当時城南

区にあった「田島寮」という男子学生寮に住んでいました。そこで同世代の人間と食事に風呂や就寝まで共にすることで、24時間濃い青春を送ることができました。夜中の2時に仲間10人で自転車に乗って行く元祖長浜屋は一生ものの思い出です。

教育学部では、比較教育学研究室で、シンガポールの職業教育について研究しました。シンガポールは幼い頃から成績順に学生を振り分け、それぞれの持てるだけの能力を最大限に引き出そうとする教育を行っています。端から見ると極端に映るかもしれませんが、1965年の独立以降、経済大国として名を馳せている現在のシンガポールを見てみると、足並みを揃えようとする日本式の教育に一石を投じる何かがあるのではないかと考えました。海外にはそれぞれの文化や歴史的背景に基づいた教育が行われています。それを研究していくことで、教育全体の底上げが図られるのではないかと思います。

今は北九州市で公務員をしています。現在の職場は用地買収を行う部署で、大学での経験を活かしきれっていませんが、今後は教育関係や海外関係(北九州市はベトナムやカンボジアなどに水道関係で進出しています。)で、大学だけでなく人生で経験したことを活かし、今後も自分という人間を掘り出されるような職に就きたいと考えています。

大学生生活は自分の時間を全て自分で好きにマネジメントできます。日本中から様々な個性を持った仲間達と触れ合い、社会経験や旅行を通じて自分の殻を抜けることのできる時期です。「大学で何を学ぶか」は勿論重要ですが、「大学時代に何を学ぶか」というより高次元な目線で、これからの人生を謳歌して下さい。

教 育 学 部 Q&A

Q 教育学部の教育心理学と文学部の心理学とは、どのように違うのですか。

A 文学部の心理学は1つの講座で、主に成人を対象にして人間の知覚、運動、認知などを研究しています。私たちの教育学部の教育心理学は教育心理学、発達心理学、社会心理学、人間環境心理学、カウンセリング、発達臨床学、生涯発達学、発達相談学という8つの部門から成り立っています。そして子どもの成長、発達、適応に関する心理学的研究だけでなく、身体の不自由な子どもたちに関する診断、治療に関する心理学研究も行っており、広く総合科学的に研究し、教育しています。

Q 自分が選んだ系やコース以外の系やコースの勉強もすることができますか。

A もちろんできます。入学して2年生になると、教育学系に進むか教育心理学系に進むか、また、その系のなかの、どちらのコースに進むかを決めます。そして自分で選んだ系やコースの科目を中心に勉強していきますが、別の系やコースの科目でも自由に履修することができます(ただし、一部の特別な科目は除く)。

Q 九州大学の教育学部と他の大学の教員養成系学部とは違うのですか。

A 国立大学法人の教育学部には2種類あって、教員養成を目的とした教育学部と、学問としての教育学や教育心理学の研究・教育を目的とした教育学部があります。九州大学の教育学部は後者です。東京大学や京都大学の教育学部と同じように、教育学や教育心理学の研究・教育を目的としています。

ア ク セ ス マ ッ プ ACCESS MAP



国立大学法人 九州大学 教育学部
貝塚地区事務部教務課学生第二係
〒812-8581 福岡市東区箱崎6丁目19番1号
TEL: 092-642-3105 FAX: 092-642-3165

編集スタッフ

後列 向 晃佑
前列左より 白井 航、島仲 凜々、塚野 慧星



九州大学



School of Education, Kyushu University

九州大学教育学部

国立大学法人 九州大学 教育学部
貝塚地区事務部教務課学生第二係

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-19-1
TEL:092.642.3105 / FAX:092.642.3165



<http://education.kyushu-u.ac.jp>